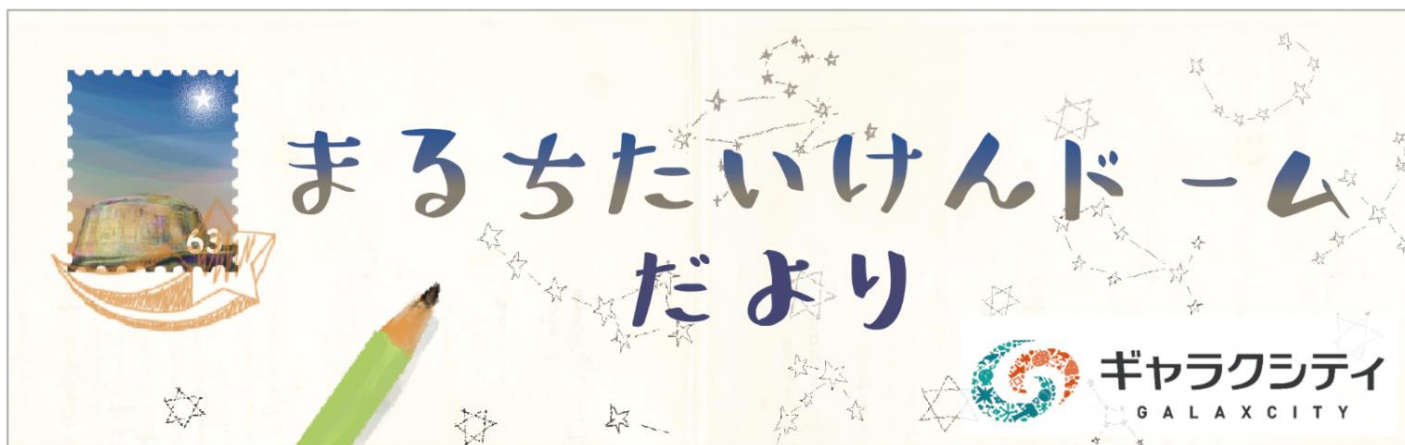




木星の世界～大赤斑の寿命

現在の大赤斑は1831年に最初に記録^{きろく}されていたことは前にも書きました。それ以前には大赤斑は無かったのでしょうか？1968年にチャップマンという人が調べたところ、1660年代半ばから1712年まで、木星の南半球に、経度方向の大きさ10度ほどの大赤斑に



1691年1月の木星 カッシーニの斑点が見えています。

似た楕円形^{だえん}の模様が観測されていることが分かり、観測者の名前からカッシーニの斑点^{はんてん}と名づけられました。この斑点が大赤斑の昔の姿なら、大赤斑の寿命は300年以上ということになり、これが世界中に広がって300年説が信じられるようになりました。しかし、良く調べてみると、1713年から1830年までの120年ほどの間は、それらしい模様の記録が全くありません。木星の表面模様^{ひょうめんもよう}の観測記録は数多く残されていますから、大赤斑もカッシーニの斑点もこの期間は、なかったのだろうと考えられています。

大赤斑は昔は大きかったのに、小さくなっているという話は前号にも書きました。そうすると、カッシーニの斑点は1つ前の世代^{せだい}の大赤斑ではなかったのだろうかと考えられます。消滅^{しょうめつ}する直前50年ほどの期間、観測されていたのだと考ええると自然です。現在の大赤斑はもう290年も生きています。さらに50年くらいは存続^{そんぞく}しそうなので、プラネタリウムでは「大赤斑の寿命は300年以上です」と解説しています。

かいせつ いん た べ い っ し
(解説員：田部一志)